

秦野市の多世代交流施設って、なに?



佐藤さんから聞いて初めて多世代交流施設というものができることを知りました。これは必要なものなのですか?



そうですね。こういった施設はこれから時代、必要なものだとは思います。ただ、この建設予算に40億をかけるというところに私は疑問を感じています。



40億!立派な施設ですね。秦野市はお金持ちなんですか?



いえ、そんなことはありません。補助金を活用するようですが、もちろん全額出るわけではありません。具体的な割合はまだこれからのようにですが、その予算をかける必要性があるかは、もっと広く市民の声を聞く必要があるのではないかでしょうか。



でも、老朽化したはだのこども館の機能もあるんですよね?なくなったら困る人もいるのではないかですか?



もちろんそうです。でも、例えば新しい施設を作るのではなく、既存の施設を活用したらどうでしょう。場合によってはリフォームなどが必要かもしれません、それでも新たに建設するよりコストを抑えることができるのではないかと思います。



なるほど。そういうやり方もあるんですね。



はい。そういうやり方で予算を抑えれば、例えば高齢者などの交通移動手段の支援や、物価高対策、子育てや教育の支援、市民の命を守るために防災対策などをより充実させることもできるのではないかでしょうか。



いつかは免許返納も考えなければならぬので、交通手段の支援は嬉しいですね。物価高対策も、市民としては助かります。



もちろん必ずできるというわけではありませんが、どこにいくら予算を使うかを、もっと市民と話し合える場があつてもいいのではないかでしょうか。市民も行政に任せきりにせず、もっと関心を持つことが大切です。

共につくる 共に歩む はだの

企画:市民がつくるはだの未来



さとしん

「先生だけに頼らない」 教育の改革



小学生の子どもが2人いる夫婦なのですが、子どもの声が学校に届いていないのではないかと感じることがあります。学力のこともあるし、少し不安です。



ニュース等でもたびたび取り上げられていますが、学校の現場が疲弊しているのではないかと感じます。雑多な業務に忙殺され、学校や教員のやりたいことができないという可能性はあります。



ということは、世の中の流れだからどうにもならないということでしょうか?



そんなことはありません。例えば民間の力を導入するなどの施策を打つことで、教員の負担を軽減することはできると思います。民間から教育のスペシャリストを登用して学校業務全般を見直す、あるいはよく言われる「顧問になることによる部活の負担」も、その道で頑張っていたOB・OGの力を借りることで負担軽減は可能です。経験者の指導で部活のレベルアップにつながる可能性という付加価値もあります。



なるほど。個人的には勉強も大事ですが、せっかくの秦野の特性を生かした学びも取り入れて欲しいと思っています。



それも教員の負担が減れば可能になるかもしれません。余裕ができれば教員も授業の質を上げられるし、学校も秦野の自然を生かした地域愛を育む学びなどを取り入れることができるかもしれません。また、これも民間との協働で地域の方を講師に招いてもいいでしょう。これは子どもたちの成長にもつながるだけでなく、地域の顔も見えるようになるなど相乗効果も期待できます。



子ども一人一人に向き合う時間ができるかもしれないのですね。



学力向上や道徳、人権への学びなど、現場が生き生きと輝ける環境のためには「先生だけに頼らない」という考え方の改革も必要かもしれませんね。



子育てや将来への不安、どうする?



子どもを1人育てている母親です。理想では3人欲しいと思っているのですが、収入面や物価高など経済的な理由で諦めるしかないかなと思っています。「育児家庭が豊かに暮らせる未来」なんてあるのか、将来が不安です。



確かに経済的な不安で2人目、3人目を望めないというお話を多く聞きます。例えば18歳までの医療費無償化や保育機能の充実、給食無償化など行政の支援を充実させることで払拭できる不安もあるのではないかでしょうか。



でも、そのためにはお金がかかるのではないかですか?秦野市にそんなお金はあるのですか?



確かに市の事業として行うにはお金(予算)が必要で、多くの地方自治体が財政難に悩んでいます。当然、お金は無限に湧いてくるわけではないので、いかに効率的に使うかが肝要になります。



そんなことが可能なのですか?それだけで使えるお金が増えるとは思えないのですが…。



そんなことはありません。多世代交流施設を例にすると、そもそも必要なのか?必要なら予算規模はどれくらいが妥当なのか?を議論することで他にお金を回す余剰が生れるかもしれません。



そうすると、子育て支援に使えるお金が増えたりするものなのですか?



もちろんです。例えば議論の結果、その施設は必要ない、または必要だけどもっと小さい規模や既存の建物を使うとなった場合、予算規模が縮小します。そうすれば前述した事業や、場合によっては子どもがなかなか望めず不妊治療をしているご夫婦への支援、若者・子育て世代の移住・定住促進などに積極的に回すお金が生まれるかもしれません。若者の結婚に対する願望や、理想の子どもの数というのは30年前と大きく変わらないという統計が出ています。これを実現し、若者や子育て世代が希望を持てる社会にすることが重要だと思います。



行財政改革って、本当にできるの?



佐藤さんは「市政を一新すべき」と言っていますが、具体的に今の秦野は何をすべきだと思いますか?



はい。まずは市長給与を削減するなど、身を切る改革です。他にも市長公用車の送迎や職員の定年退職延長廃止なども検討し、浮いたお金を物価高対策や市民福祉向上に回すのはどうでしょうか。



確かにそれはわかりやすいですが、それだけで大きな財源ができるとは思えないのですが…。



そうですね。なので合わせて、徹底した行財政改革も必要ではないかと思います。お金の使い方を見直すため市民参加の事業総点検を行い、今ある事業を重要度や緊急度、費用対効果などの項目で抜本的に見直してはどうでしょう。



でもそれで仕事が増えて職員の残業が増え、結局人件費が増えるということにつながりませんか?



そこはDX活用による業務改革で、仕事時間を確保することで改善できるのではないかと思います。例えばこれにより手続きが効率化されれば市民サービス向上にもつながりますし、業務が効率化されれば行政が本当に取り組みたい事業に人財を回すこともできます。



でもやはり、誰がやっても変わらないし、市民の声は届きにくいと感じてしまうのですが…。



そういうご意見は多いかと思います。しかし、みなさんが興味を失ってはそれこそ何も変わりません。例えば私は、徹底した情報公開による市政の透明化や、「組織や政党にとらわれず、いいものは採用すべきだし、良くないものは忖度せず行わない」という姿勢が必要だと感じています。まずは身近なところでも構わないで、自分が暮らすまちのことに少しでも興味を持ち、誰が自分と同じ思いを持っているか知るところから始めてみてはいかがでしょうか。

